

温室効果ガス「見える化」推進に関する論点

温室効果ガス「見える化」推進に係る論点(1/2)

■ 見える化の全体像

- 見える化の取組の範囲、目的の捉え方に問題はないか。
- 本会議で対象とする見える化の定義、見える化の範囲をどこまでとすべきか。
- 取組の整理方法に問題はないか。

■ 優先順位

- 「見える化」の全体の体系にあつて、本会議で特に優先して検討すべき事項は何か。あるいは、取り組みを短期～中長期で分類するとどうなるか。
→これまでは、家庭や事業者における排出削減を促すための「見える化」について、その論理と実証を中心に扱ってきたが、同様の方向性でよいか。

■ 関与の仕方

- 政府としての関与のあり方について、積極的に政府自身主体となって取り組むべきものから、民間事業者の自主的な取組を促すべく支援を行うべきものまで、関与の仕方はどうあるべきか。

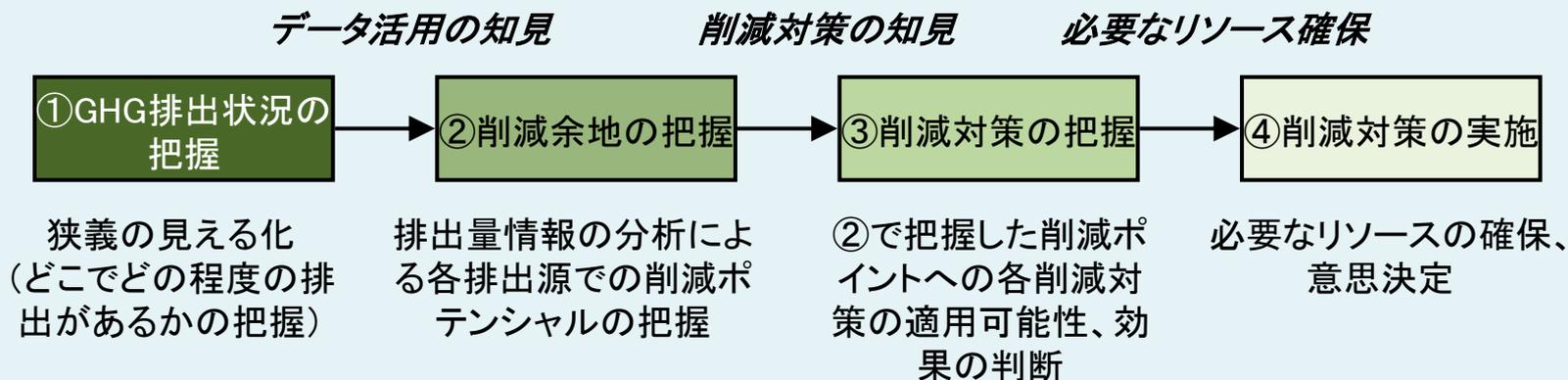
■ 見える化の方法

- 見える化の精度はどの程度確保すべきか。相場観の把握であれば規模の把握だけでもよいか。
- 測定対象をどこまで広げるべきか。(現状では電気だけ測定する場合が多い)

参考：見える化の削減メカニズム

- 温室効果ガス「見える化」による削減メカニズムは以下のとおり整理できる。「見える化」を削減につなげるためには各ステップを順に踏めるような仕掛けが必要であり、「見える化」のあり方を検討する際には削減メカニズムを考慮の上、検討を行う必要があるものと考えられる。

【排出量の「見える化」の場合】



【温室効果ガス排出量の削減を促す「見える化」の場合】

